

## 専門ゼミ紹介 2015年度

准教授 宮島清

2015年度は12名のメンバーで学んでいます。11期長期履修生4名、12期生1年履修4名、そして同長期履修4名で構成されています。

どのような方々かと言いますと、児童相談所児童福祉司（現職、経験者）、市区町村児童福祉担当SW・生活保護担当SW（現職、経験者）児童福祉施設ケアワーカー・管理者（現職、経験者）、スクールソーシャルワーカー（現職）、児童家庭支援センターSW（現職）などです。

勤務地や派遣元の自治体は関東全体（茨城県、埼玉県、東京都、川崎市、横浜市、神奈川県）に拡がり、遠く熊本県から一年間派遣され東京都内の事務所に籍をおいて学んでいる方もいます。

年齢も20歳代から、40歳代まで拡がっています。（なんと、今年度は50歳代以上の方がいないことに今、気付きました。ちなみに過去の最高齢の方は70歳代でした。）

今年度のゼミの運営は、ゼミ生からの提案もあって、過年度までとは少し違ったやり方を行っています。



担当科目：子ども家庭福祉の制度と動向、同理論と方法、児童虐待対応SW、社会的養護実践論、事例研究など  
社会的活動：厚生労働省社会保障審議会児童部会委員他

いずれにしても、ゼミでは、メンバーそれぞれが取り組む実践研究の内容やその進捗状況を報告して、他のメンバーや教員から意見をもらい、拡げ深め、そして統合するということが中心となります。しかし、今年度は、過年度においてはゼミでもメンバーが提出する事例を検討するというやり方をしてきたことを改め、メンバーが何らかのかたちで共通に関心を持つことができる「その日のテーマ」を挙げて、それについて、2グループに分かれて討論し、それを全体でシェアするというやり方を行っています。7月までに、このやり方で話し合ったテーマは「多機関連携・協働」「一時保護」「支援状況の進行管理」の3つでした。

ここでは、その内容までを詳しく紹介することはできませんが、公私や職種の別、施設と在宅支援機関の垣根を越えて自由に討論できることはとても貴重・有意義で、そこに立ち会う教員にとっても、大きな学びの機会となっていることだけは報告しておきたいと思います。

その他、宮島ゼミの「売り」を挙げるならば、実践現場での事例検討会への参加が可能であることです。教員がSV<sub>r</sub>として参加する機会では依頼先の了解がある場合には、人数の制限とルール遵守を条件とした上で、同行を認めています。この交流の機会が、参加する我々のみならず、依頼先機関・施設にとっても、実践の向上に繋がることを願っています。（2015年7月24日記）

### 1 こんな方を求めています。

地域をベースにSW実践に取り組み、自己及び所属機関のSW実践の向上を目指す方。施設や里親での養育や運営の改善のためにテーマを決めて、何らかの取り組みを進め、これについてまとめたい方。発信し改革に取り組む方。

### 2 こんな学びを勧めます。

価値・視点・基本を再確認する。異なる視点・情報・意見を聞き、取り込む。